

情報リテラシー

責任者・コーディネーター	情報科学科数学分野 長谷川 大 助教		
担当講座・学科(分野)	情報科学科数学分野		
担 当 教 員	長谷川 大 助教		
対象学年	1	区分・時間数	演習 21 時間
期 間	前期		

・学習方針（講義概要等）

“読み書き算盤”という学びの基本を示した古くからの言葉があるが、その本質は色褪せることがない。複雑な現代社会の中で病める人々と向き合わなくてはいけないこれからの医療人にはさらに“聴く・話す”能力も求められる。コンピュータと関連機器は、これらの学びの基本の習得および実践活用を強力にアシストする現代の神器である。しかし、ボタンを1個押せばあとは御任せというわけにはいかない。本科目は、習得訓練によってコンピュータと関連機器を勉学・研究生活の強力無比なアシスタントとして、倫理観をもって操る能力を学ぶ。

・教育成果（アウトカム）

情報機器、アプリケーションソフトウェア、ネット等を道具として実践的に利用しながら、より実社会、専門領域等につながる ICT 活用の基礎知識・基本概念を修得することによって、ICT 活用の基礎理解を深め、情報リテラシー能力を高める。このことにより、実社会や専門領域等で出会う、種々の情報関連課題に対して、ICT を用いて情報収集・分析し、適正に判断し、モラルに則って、迅速に効果的に対処する能力を会得することができる。
また、情報ネットワーク社会の構成員としての自覚と責任を十分に理解することで、LAN やインターネットをコミュニケーションツールとして利用する際、情報ネットワークの倫理規範等に従って安全に情報を活用することができる。（ディプロマポリシー：2）

・到達目標（SBO）

- 1.コンピュータのハードウェア・ソフトウェアの基本構成とインターネットの仕組みを説明できる。
- 2.ネットワークエチケットの大切さをより深く認識できる。
- 3.情報セキュリティの基本を理解して協調的にネットワークに参加できる。
- 4.基本操作およびファイル管理システムを理解し、フォルダ・ファイルの管理が円滑に行える。
- 5.オフィス関連ソフトを利用できる。
- 6.ウェブページ表現の基礎を説明できる

・講義日程

（矢）東 203 マルチメディア教室

【演習】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容/到達目標
6/5	火	3	数学分野	長谷川 大 助教	PC リテラシー(1)基本 1. ハード/ソフトウェアの構成と役割について説明できる。 2. データファイルの複写等の操作ができる。
6/5	火	4	数学分野	長谷川 大 助教	PC リテラシー(2)ワープロ 1. 文書ファイルの作成や保存ができる。 2. ビジネス文書、複合文書を作成できる。
6/12	火	3	数学分野	長谷川 大 助教	PC リテラシー(3)表計算 1 1. 作成や計算式を扱うことができる。 2. 関数を扱うことができ、グラフ化ができる。
6/12	火	4	数学分野	長谷川 大 助教	PC リテラシー(4)表計算 2 1. 簡単なデータ処理ができる。 2. 基本的な科学計算を行うことができる。
6/19	火	3	数学分野	長谷川 大 助教	ネットリテラシー(1)活用 1. SNS などのネットサービスの仕組みを理解して、活用できる。
6/19	火	4	数学分野	長谷川 大 助教	ネットリテラシー(2)脅威 1. リスクを理解することができる。 2. パスワード、暗号化などの対処法を理解して利用することができる。
6/26	火	3	数学分野	長谷川 大 助教	情報倫理 1. 法律や倫理などを理解して、情報発信できるようになる。
6/26	火	4	数学分野	長谷川 大 助教	情報社会 1. IT、ICT によるサービスの仕組みを外接できる。 2. IOT の基礎を理解できる。
7/3	火	3	数学分野	長谷川 大 助教	情報基礎理論 1. 二進法、情報量単位、コード化など情報の基礎表現の仕組みがわかる。
7/3	火	4	数学分野	長谷川 大 助教	情報の表現 1. 音、画像、動画ファイルの仕組みがわ

					かる。 2. 基本的な画像処理ができる。
7/10	火	3	数学分野	長谷川 大 助教	ネット技術(1) 1. インターネットの概要、問題点などを説明できる。 2. Web ページと HTML の仕組みがわかる。
7/10	火	4	数学分野	長谷川 大 助教	ネット技術(2) 1. 電子メールシステムを概説できる。 2. LAN、WiFi、携帯電話網の仕組みを理解して、利用できる。
7/17	火	3	数学分野	長谷川 大 助教	ハードウェア技術 1. スマートフォンとタブレットについて理解を深め、活用できる。 2. 様々なデジタルデバイス、情報家電の理解を深めることができる。
7/17	火	4	数学分野	長谷川 大 助教	総合問題 1. 総合問題を解くことによって確認し、理解を深め、将来への応用力を高める。

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	キーワードで学ぶ最新情報トピックス 2018	久野 靖 他監修	日経 BP 社	2018
参	Word 2013 Excel 2013 PowerPoint 2013 ステップアップラーニング	定平 誠	技術評論社	2014
参	学生のための情報リテラシー	若山 芳三郎	東京電機大学出版局	2014
参	パワポで極める常勝プレゼン	住中 光夫	アスキー・メディアワークス	2011
参	HTML5&CSS3 辞典 第2版	アंक	翔泳社	2013

・成績評価方法

大よそ、課題提出も含めて積極的な取り組み状況を 4 割、課題内容を 6 割として SBO 基準で総合的に評価する。

・特記事項・その他

- 1.各自、所有のノート PC(MS Windows 8/Office 2013 以降、最新セキュリティ対策済) を持参すること。
- 2.本シラバスおよび実施済授業の内容から次回の授業内容を各自で確認して、教科書・レジュメ等を用いて事前・事後学修を最低 30 分行うこと。
- 3.提出された課題レポートが紙媒体の場合は採点后、必要に応じてコメント等を付けて返却する。
【参照】医学教育モデル・コア・カリキュラムー教育内容ガイドラインー（平成 28 年度改訂版）

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノート PC(MS Windows/Apple Mac)	1	担当教員資料作成、講義プレゼン
講義	ノート PC(MS Windows)	2	実験実習補助者資料作成、講義補助
講義	教室付属 AV システム一式	1	資料提示、講義プレゼン
講義	教室付属プリンタ	2	課題作成
講義	スマートデバイス(タブレット/スマホ：Apple iPad/Android)	2	資料提示、講義プレゼン